

「まなびの広場」は那須教育事務所ホームページに掲載されます。  
http://www.pref.tochigi.lg.jp/system/desaki/desaki/nasu-kyouiku01.html

毎月第3日曜日は「家庭の日」

## 両郷地区コミュニティセンターオープン

平成22年2月22日(月)より、両郷地区コミュニティセンターが業務を開始しました。この施設には両郷地区公民館ほか2つの施設があり、地域住民の交流の場として、また両郷地区の生涯学習の拠点施設としての利用が期待されています。

このコミュニティセンターで特筆すべき点として、共存道場に関する展示スペースがあります。共存道場とは大正14年、両郷地区の有志が中心となって当時栃木県感化院長だった原田善吉氏を館長として迎え、開設された教育施設です。原田氏は昭和33年に82歳で亡くなるまで、道場の運営に携わっていました。地元住民からは、全一(ぜんいつ)道場または私立公民館と呼ばれていました。

共存道場からは、多くの人材を輩出し、地域の教育施設としての役割を担いました。展示スペースでは、共存道場の歴史や蔵書が展示されています。

両郷地区の教育の発展を担った共存道場のように、両郷地区コミュニティセンターも両郷地区の生涯学習の更なる発展に寄与することでしょう。

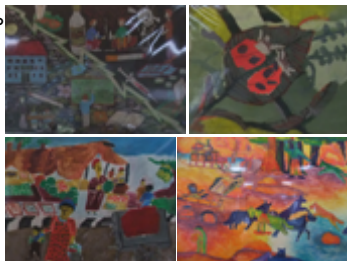


## ～世界の子どもたちからのメッセージ～ 世界の子ども絵画展

世界中の子どもたちの声に耳を傾けてみませんか? 那須町では、4月9日(金)～11日(日)までの3日間、町文化センターで「世界の子ども絵画展」を開催します。展示される絵画は、イタリア在住の牧師澤田高さん(73歳)が各国大使館の協力を得て長年収集されてきたものです(保管数1200点以上)。

世界の子どもたちが描いた絵画からは、自国の様々な現実の様子が切実なメッセージとして発せられています。平穏な日常を描いた絵や、貧困・ドラッグ・暴力...といった風景が横たわる悲しい日常の絵は、私たちをしばし考えさせてくれます。子どもたちは自然はもとより、社会・地域・大人...から多くの影響を受けて育っています。その子どもが見た・感じた世界は絵の中にありありと表現されています。

彼ら彼女たちの絵画から貴重なメッセージを読み取り、私たち大人は、世界の子どもたちの未来に何が出来るのか一緒に考えてみませんか。



実施するにあたり町内の学校に1校数点ずつ展示しております。

## 「ふれあい学習」っていったいなあ～に?

ふれあい学習とは、地域の様々な人々が、これまでの経験や学習から得た知識や技術を生かし、子ども同士、子どもと大人、大人同士、幅広い年代の人々がふれあう交流活動、体験活動や学習活動のことを言います。すなわち、子どもたちの「生きる力(豊かな人間性、確かな学力、健康・体力)」をはぐくむことと、家庭・地域の教育力の活性化を目指すものです。栃木県教育委員会においては、平成13年度から県内8教育事務所にふれあい学習課を設置して、全県的に、また那須地区においても様々な生涯学習関連施設等が、那須地区を中心に「ふれあい学習」を推進しています。

那須教育事務所が行っている「ふれあい学習出前講座」や、那須地区ふれあい学習推進会議が中心となって行った「那須地区ふれあい学習ネットワーク」なども、その活動の一つです。



ふれあい学習ネットワークの一場面(2/6)

## 「つるし雛」がつなく地域の絆 塩原公民館

「塩原の冬を、明るく楽しいものにしたい。」その思いのほとばしりが「つるし雛を飾り隊」の発足となりました。

早速、「つるし雛教室」を公民館講座として立ち上げましたところ、定員を大きく上回る参加申し込みがあり、たちまち人気の講座になりました。寺内正江先生のご指導の下、「つるし雛」に寄せる思いはどんどん深まってきました。

地域の皆さんからは、布や参考資料の提供など、陰に陽に支えていただきました。「つるし雛を見ると、心が和む。温かな気持ちになる。」などの感想も寄せられ、受講生の創造力をかきたて、制作意欲の高まりとなっていきました。

秋のコミュニティまつり、2月下旬から3月中旬にかけての公民館での作品展が主な発表の場になっています。

徐々に地域に広まり、根つきつつあります。これからも特色のある講座として続けていく予定です。

